

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2008-266877

(P2008-266877A)

(43) 公開日 平成20年11月6日(2008.11.6)

(51) Int.Cl.

A41G 3/00 (2006.01)

F I

A41G 3/00

H

A41G 3/00

D

テーマコード (参考)

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2008-168186 (P2008-168186)
 (22) 出願日 平成20年6月27日 (2008. 6. 27)
 (62) 分割の表示 特願2005-229200 (P2005-229200)
 の分割
 原出願日 平成17年8月8日 (2005. 8. 8)

(71) 出願人 596041009
 株式会社ハリウッドマジック
 大阪府大阪市淀川区西中島7丁目1番3-
 804号
 (74) 代理人 100077791
 弁理士 中野 収二
 (72) 発明者 島田 広夫
 大阪府吹田市藤ヶ丘町39番地の2

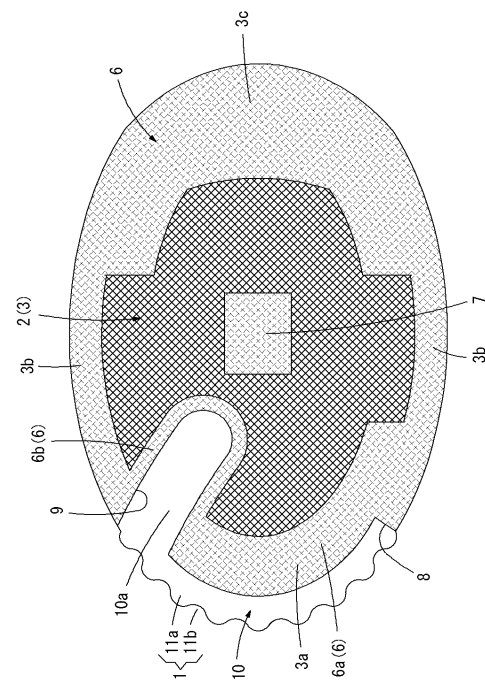
(54) 【発明の名称】 カツラ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】前髪の生えぎわに違和感がなく、カツラの装着がわからないように改良を施したカツラを提供する。

【解決手段】着用者の頭部に被冠される下向き皿状のネットシート本体3からなるベース2に、前記ネットシート本体3から着用者の生えぎわ部に臨んで、生えぎわシート10を連設している。生えぎわシート10に植毛された前髪の植毛密度D1は、前記ベース2に植毛された頭髮の植毛密度D2に対して、 $D1 < D2$ となるように構成され、前記生えぎわシート10は、柔軟性と粘着性を有する透明又は半透明のフィルム状に形成されている。

【選択図】図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

着用者の頭部に被冠される下向き皿状のネットシート本体(3)からなるベース(2)に疑似毛からなる頭髮(1)を植毛したカツラにおいて、

着用者の少なくとも眉間の上方部位に位置する生えざわ部(4)に臨むベース(2)の前部(3a)から該生えざわ部(4)に向けて生えざわシート(10)を連設し、該生えざわシート(10)に前髪(1a)を植毛しており、

前記生えざわシート(10)に植毛された前髪(1a)の植毛密度 D_1 は、前記ベース(2)に植毛された頭髮(1b)の植毛密度 D_2 に対して、 $D_1 < D_2$ となるように構成され、

前記生えざわシート(10)は、柔軟性と粘着性を有する透明又は半透明のフィルム状に形成されて成ることを特徴とするカツラ。

10

【請求項 2】

植毛密度が前髪(1a)から頭部の髪(1b)に向けて次第に疎から密となるように頭髮(1)を植毛して成ることを特徴とする請求項 1 に記載のカツラ。

【請求項 3】

前記ネットシート本体(3)は、周縁部に非伸縮性の保形部(6)を設け、該ネットシート本体(3)の前記生えざわ部(4)に臨む前部(3a)から頭髮の分け目(5)に対応する長窓部(9)を形成すると共に、前記保形部(6)を延長することにより長窓部(9)を縁取る延長縁部(6b)を形成しており、

前記生えざわシート(10)を連続して一体に延長することにより前記長窓部(9)を被う分け目ベース(10a)を形成して成ることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のカツラ。

20

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、カツラに関するものであり、特に、前髪の生えざわに違和感がなく、カツラの装着がわからないように改良を施したものに關する。

【背景技術】

【0002】

従来、種々のカツラが提供されており、本出願人においても提案したところであるが、近年は、着用者の頭部に残存する生存中の頭髮(地毛)と、カツラに植毛された頭髮(疑似毛、但し天然毛又は人工毛を問わない)とを混然一体化させるために、種々の工夫がなされている。

30

【0003】

カツラの着用者は、通常、額の眉間の上方部分から頭頂部に向けて高く禿げ上がっているが、その両側には地毛が残存しており、地毛の生えざわが概ね M 形を描いている。

【0004】

そこで、カツラの疑似毛は、着用者の残存する地毛との境界部分では、疑似毛と地毛が混然一体化するので、外部から見てもカツラの着用を識別できない。しかしながら、前述のように禿げ上がった眉間の上方部位においては、地毛が存在しないため、カツラの疑似毛により構成された前髪が独立状態で視認され、そのため、カツラベースのうち、前髪を植毛した部分をどのようにして目立たないようにするかが大きな課題となる。

40

【特許文献 1】特開平 9 - 228129 公報

【特許文献 2】特開 2004 - 197268 公報

【特許文献 3】特開 2004 - 228129 公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

疑似毛からなる前髪の生えざわ部分を目立たないように構成するためには、例えば、図 7 ないし図 8 に示すような比較例を考えることができる。

【0006】

50

(第1比較例)

図7は、疑似毛からなる頭髮1を植毛したネットシート本体3からなるベース2の前縁部2aに前髪1aを植毛する際に、前髪1aの毛根近傍部を前縁部2aの内側(裏側)に植設した構成とされ、該前髪1aを前縁部2aに対して折返し、後向きに延びるように癖付けしている。従って、この比較例によれば、外部からベース2の前縁部2aを視認し得ないように隠蔽できる利点がある。しかしながら、この場合、図示の矢印X1で示すような前髪1aの折返し部が額に沿ってライン状に現われるので目立ち不自然なばかりか、前髪1aの毛根近傍部が前縁部2aの裏側に位置し、生えざわが見えないため、自然の頭髮には到底見えないという問題がある。

【0007】

10

(第2比較例)

そこで、図8は、ネットシート本体3からなるベース2の前縁部2aの外側(表側)に前髪1aを植毛している。これにより前髪1aの生えざわ部分が視認されるので、第1比較例で説明したような問題は解消される。しかしながら、前縁部2aは、ベース2のネットシート本体3を延設したものであるため、これを肌色に着色することで着用者の皮膚と色調をあわせても、完璧な錯視効果(看者の肉眼による目の錯覚により、その存在が気づかないようにすることの意味である。以下同じ。)を期待できない。一般的に、ネット状のシートは、網目の大きさを粗くすると線條の太さが増すため網目が目立ち易いので、網目の大きさを細かくすることにより線條を細くすれば目立たないとする傾向があるが、本発明者の知見によれば、網目を細かくすると、肌色に着色していても、光の反射により白く見えてしまい、錯視効果を奏し得ないからである。

20

【0008】

更に、ベース2のネットシート本体3は、着用者の頭部にフィットさせる関係上、平織その他の編織シートからなり、ある程度の伸縮性を有する。従って、ベース2のネットシート本体3から延設したり、あるいは、その他の伸縮性を有する別体の網目シートをネットシート本体3に固着することにより前縁部2aを形成した図8の比較例の場合には、カツラの着用によりベース2のネットシート本体3が伸長すると、前縁部2aも同様に、図8(B)のネット形状から網目の変形を介して図8(C)に示すように伸長し、収縮力を蓄積する。このため、図8(A)に矢印X2で示すように、額に沿って湾曲した前縁部2aの収縮力が反転すると、前縁部2aが着用者の額から捲れ上がり、額との間に隙間を生じるといった致命的な問題を含んでいる。

30

【課題を解決するための手段】

【0009】

本発明は、上記課題を解決したカツラを提供するものであり、その手段として構成したところは、着用者の頭部に被冠される下向き皿状のネットシート本体からなるベースに疑似毛からなる頭髮を植毛したカツラにおいて、着用者の少なくとも眉間の上方部位に位置する生えざわ部に臨むベースの前部から該生えざわ部に向けて生えざわシートを連設し、該生えざわシートに前髪を植毛しており、前記生えざわシートに植毛された前髪の植毛密度D1は、前記ベースに植毛された頭髮の植毛密度D2に対して、 $D1 < D2$ となるように構成され、前記生えざわシートは、柔軟性と粘着性を有する透明又は半透明のフィルム状に形成されて成る点にある。

40

【0010】

この際、頭髮の植毛密度は、前髪から頭部の髪に向けて次第に疎から密となるように構成するのが好ましい。

【0011】

本発明の好ましい実施形態において、前記ネットシート本体は、周縁部に非伸縮性の保形部を設け、該ネットシート本体の前記生えざわ部に臨む前部から頭髮の分け目に対応する長窓部を形成している。そこで、前記保形部を延長することにより長窓部を縁取る延長縁部を形成し、前記生えざわシートを連続して一体に延長することにより前記長窓部を被う分け目ベースを形成している。

50

【発明の効果】

【0012】

本発明によれば、生えざわシート10が柔軟性と粘着性を有するフィルムを構成しているので、着用者の生えざわ部4に好適に密着する。この際、生えざわシート10は、外部から前髪1aの間を透視することにより視認可能であるが、透明又は半透明のため、密着状態で頭部の頭皮と一体化した外観を呈し、従って、識別不能であり、あたかも生えざわシート10が存在しないような錯視効果がある。

【0013】

特に、本発明によれば、生えざわシート10に植毛された前髪1aの植毛密度D1とベース2に植毛された頭髮1bの植毛密度D2を $D1 < D2$ となるように構成し、好ましくは、頭髮1の植毛密度を前髪1aから頭部の髪1bに向けて次第に疎から密となるように構成しているので、植毛密度が疎とされた前髪1aの間から透明又は半透明の生えざわシート10を透して皮膚を透視したとき、生えざわシート10から起立する前髪1aの毛根近傍部が本当の地毛の生えざわを表しているような錯視効果がある。

【0014】

そして、請求項3に記載の本発明によれば、ネットシート本体3は、周縁部に非伸縮性の保形部6を設けることにより球面状に保形されるように構成され、この際、該保形部6を延長することにより長窓部9を縁取る延長縁部6bを形成しているので、前記生えざわシート10を連続して一体に延長するだけで該長窓部9を被う分け目ベース10aを好適に形成することができる。そこで、外部から視認される分け目5と生えざわ部4が一体のフ

【発明を実施するための最良の形態】

【0015】

以下図面に基づいて本発明の好ましい実施形態を詳述する。

【0016】

図1は、本発明に係るカツラの概略全体図を示し、カツラは、着用者の頭部に被冠される下向き皿状のネットシート本体3からなるベース2に疑似毛からなる頭髮1を植毛し、着用者の少なくとも眉間の上方部位に位置する生えざわ部4に疑似毛からなる前髪1aを植毛している。頭髮1は、その植毛密度を矢印Bで示すように、前髪1aから頂部の髪1bに向けて、次第に疎から密となるように植設されるのが好ましい。即ち、前髪1aは単位面積あたりの植毛本数が少なく、自然な生えざわ状態を形成しており、従って、生えざわシート10に植毛された前髪1aの植毛密度D1とベース2に植毛された頭髮1bの植毛密度D2を $D1 < D2$ となるように構成されている。図示実施形態において、カツラは、前髪1aを含む頭髮1を生えざわ部4から後向きに延びる分け目5を構成するように植毛しているが、頭髮1を後向きに癖付けしたバックスタイルのカツラを構成しても良い。

【0017】

この点に関し、本発明において「疑似毛」とは、着用者の頭部に残存する生存中の地毛に対する意味であり、天然毛又は人工毛を問わないことを諒解されたい。また、「生えざわ部」とは、カツラの装着を必要としない通常の人体の頭部で地毛としての前髪が生えている部分のことであり、上述のようにカツラを必要とする着用者の額における地毛の生えざわが概ねM形を描くように眉間の上方で禿げ上がった部分を意味している。従って、その幅寸法wは、少なくとも眉間の上方部位を含むが、禿げ上がった部分が幅広いときは、その幅広い部分を包含する意味であることを諒解されたい。更に、図示していないが、前述の「バックスタイル」とは、少なくとも前髪1aの生えざわを外部から視認できるように、前髪1aを前下りでなく頭部の上部に向けて後向きに癖付けしたヘアースタイルを意味し、必ずしもオールバックに限定されないことを理解されたい。

【0018】

(第1実施形態)

図2は、本発明の第1実施形態としてのカツラの内側(着用者の頭部に面する裏側)を示

しており、ベース 2 を構成するネットシート本体 3 は、着用者の頭部の生えざわ部 4 に臨む前部 3 a から、着用者の地毛が残存する頭部両側に臨む両側部 3 b、3 b と、着用者の地毛が残存する後頭部に臨む後部 3 c を含んで底面視ほぼ楕円状で、着用者の頭部に沿うような球面状に形成されており、少なくとも、伸縮性と通気性を有している。この伸縮性は、顕著なものである必要はなく、僅かな伸縮性でも足りるが、要するに着用者の頭部にフィットできるものであれば良く、図 1 に示すように、ネットシート本体 3 には、外側に起立するように多数の髪 1 b が植設される。

【0019】

ネットシート本体 3 の内側には、球面のほぼ中央部を残して、前部 3 a、両側部 3 b、3 b、後部 3 c に沿う周縁部に非伸縮性の保形部 6 が形成されている。この保形部 6 は、図例の場合、ネットシート本体 3 の内側面にウレタン樹脂系やシリコン樹脂系等のエラストマーその他の合成樹脂液を塗布した後、硬化させることにより、適度の弾性を有するフィルム状又はシート状に形成されている。しかしながら、保形部 6 は、予めエラストマーシート又は別体の網目シートを裁断したものをネットシート本体 3 の内側面に接着又は溶着することにより形成しても良く、要するに、ネットシート本体 3 を球面状に保形すると共に、該保形部 6 の部分でネットシート本体 3 の伸縮性を阻害して非伸縮状態に保持するものであれば良い。尚、図例の場合、ベース 2 の球面状の頂部に位置するネットシート本体 3 の内側にも保形部 6 と同様の素材で同様の方法により形成されたシート層 7 が形成され、カツラを着用した際にベース 2 を頭部に固定するための接着テープ等の固定手段を設けることができるように構成されている。

【0020】

ネットシート本体 3 の前部 3 a に位置して設けられた前記保形部 6 のフロント部 6 a には、生えざわ部 4 に位置して、該フロント部 6 a を含んでネットシート本体 3 を切欠した凹形部 8 が形成されている。また、前述のような分け目 5 を構成するため、前記フロント部 6 a を含んでネットシート本体 3 を前記凹形部 8 の一部分から後方向に延びるように切欠した長窓部 9 が形成されている。尚、長窓部 9 を縁取るように保形部 6 の延長縁部 6 b が形成されている。

【0021】

前記凹形部 8 及び長窓部 9 を被うように透明又は半透明のフィルム状の生えざわシート 10 が配置されており、該生えざわシート 11 は、フロント部 6 a を含むネットシート本体 3 から前記生えざわ部 4 に臨んで連設されており、生えざわ部 4 に臨む前縁にほぼ波形状に連続して延びるように、それぞれ円弧状の凸部 11 a と凹部 11 b を交互に配置した暖簾部 11 が形成されている。また、凹形部 8 のみならず長窓部 9 を被うことにより、分け目ベース 10 a を連続して一体に延長形成する。このような生えざわシート 11 は、エラストマーの塗膜により形成され、該塗膜に前髪 1 a の毛根部を埋設することにより植毛する。この際、エラストマー素材は、例えば、医用ゴムとして知られているポリウレタンやシリコンゴムが好ましく、その塗膜により形成された生えざわシート 11 は、柔軟性に優れると共に、人体の皮膚にかぶれ等を生じさせず適合性が高く、しかも、表面に微弱な粘着性を有しており皮膚に対する密着性に優れている。

【0022】

図 3 は、生えざわシート 10 の第 1 実施例を示しており、ネットシート本体 3 の保形部 6 (フロント部 6 a) と生えざわシート 10 が一体的に形成されている。即ち、所定形状に裁断されたネットシート本体 3 に対して裏面 (内面) 側からエラストマーの樹脂液を塗布することにより延長部 6 a を含む保形部 6 を形成し、その塗布と同時に、該樹脂液を保形部 6 からはみ出すように進展させることにより前記凹形部 8 と長窓部 9 を被うように生えざわシート 10 を形成する。塗膜は、完全に固化するまで暫くの時間を要するので、その間に前髪 1 a の毛根部を埋設する。塗膜がフィルム状に固化することにより生えざわシート 10 が形成された後、前縁を波形状に裁断することにより暖簾部 11 を形成する。

【0023】

図 4 は、生えざわシート 10 の第 1 実施例を示しており、ネットシート本体 3 の裏面から

エラストマーその他の樹脂液を塗布し又は別体のシートを重ねて接着もしくは溶着することにより保形部 6 を形成し、その後、保形部 6 を含んでネットシート本体 3 を所定形状に裁断することにより、前記凹形部 8 及び長窓部 9 を切欠形成する。その後、前記保形部 6 の表面（ベース 2 の裏面側ないし内面側）に重ねてエラストマーの樹脂液を塗布すると共に、塗布と同時に保形部 6 からみ出すように進展させることにより前記凹形部 8 と長窓部 9 を被うように生えざわシート 10 を形成する。尚、第 1 実施例と同様に、塗膜が完全固化するまでの間に前髪 1 a の毛根部を埋設し、フィルム状に固化した後、生えざわシート 10 の前縁を波形状に裁断することにより暖簾部 11 を形成する。

【0024】

図 5 は、生えざわシート 10 の第 2 実施例を示しており、ネットシート本体 3 の裏面からエラストマーその他の樹脂液を塗布し又は別体のシートを重ねて接着もしくは溶着することにより保形部 6 を形成し、その後、保形部 6 を含んでネットシート本体 3 を所定形状に裁断することにより、前記凹形部 8 及び長窓部 9 を切欠形成する。その後、前記保形部 6 に連なるようにエラストマーの樹脂液を塗布すると共に進展させることにより前記凹形部 8 と長窓部 9 を被うように生えざわシート 10 を形成する。尚、第 1 実施例と同様に、塗膜が完全固化するまでの間に前髪 1 a の毛根部を埋設し、フィルム状に固化した後、生えざわシート 10 の前縁を波形状に裁断することにより暖簾部 11 を形成する。

【0025】

（第 2 実施形態）

図 6 は、本発明の第 2 実施形態としてのカツラの内側（着用者の頭部に面する裏側）を示している。ベース 2 を構成するネットシート本体 3 は、着用者の頭部の生えざわ部 4 に臨む前部 3 a、着用者の地毛が残存する頭部両側に臨む両側部 3 b、3 b、着用者の地毛が残存する後頭部に臨む後部 3 c のそれぞれに沿って延びる保形部 6 を形成しており、この点は、上述した第 1 実施形態と同様である。

【0026】

ネットシート本体 3 の前部 3 a には、保形部 6 のフロント部 6 a を含んでネットシート本体 3 を後方向に延びるように切欠した長窓部 9 が形成されている。尚、長窓部 9 を縁取るように保形部 6 の延長縁部 6 b が形成されている。

【0027】

生えざわシート 10 は、フロント部 6 a を含むネットシート本体 3 から前記生えざわ部 4 に臨んで連設されており、生えざわ部 4 に臨む前縁にほぼ波形状に連続して延びるように、それぞれ円弧状の凸部 11 a と凹部 11 b を交互に配置した暖簾部 11 が形成されている。また、同時に長窓部 9 を被うことにより、分け目ベース 10 a を連続して一体に形成する。図示のように、生えざわシート 10 は、図 2 に示した第 1 実施形態の場合よりも、生えざわ部 4 に臨んで大きく進展するように形成されている。その他の構成は、上記第 1 実施形態と同様であるので、上述した説明を援用する。

【0028】

カツラを着用者の頭部に装着するに際しては、ベース 2 を頭部に被冠せしめると共に、保形部 6 を利用して頭部に固定する。例えば、両面接着テープにより保形部 6 の任意の個所を頭部の頭皮に接着したり、クリップその他の治具により保形部 6 の任意の個所を頭部に残存する地毛に固着すれば良い。

【0029】

カツラ着用状態において、生えざわシート 10 がエラストマーの塗膜により形成されたフィルムを構成しているので、着用者の生えざわ部 4 に好適に密着する。この際、前髪 1 b は、密度を疎として植毛されているので、外部から前髪 1 b の間を透視して生えざわシート 10 を視認することが可能であるが、透明又は半透明のため、密着状態で頭部の頭皮と一体化した外観を呈し、従って、識別不能であり、あたかも生えざわシート 10 が存在しておらず、生えざわシート 10 から起立する前髪 1 b の毛根近傍部が本当の地毛の生えざわを表しているような錯視効果がある。

【0030】

10

20

30

40

50

特に、生えざわシート 10 は、生えざわ部 4 に臨む前縁にほぼ波形状に連続して延びるように凸部 11 a と凹部 11 b を交互に配置した暖簾部 11 を形成しているので、着用者の生えざわ部 4 の皮膚に好適に密着する。

【0031】

この点に関して、カツラは、着用時、ネットシート本体 3 が伸縮等を介して着用者の頭部に適合され、保形部 6 が頭部に固着される。殊に、ネットシート本体 3 の両側部 3 b、3 b は、着用者の残存する地毛に混然一体化せしめるため下方に強く引っ張られた状態で固定される。従って、ベース 2 の全体が張力を受け、下向き皿状に形成されたベース 2 の周縁の周方向に関して生えざわシート 10 の両端を引っ張る方向に張力を生じる。この点について、生えざわシート 10 は、僅かながら弾性を有するので伸長傾向を示し、暖簾部 11 を僅かに伸長する。この張力は、暖簾部 11 の部分では直線方向ではなく、交互に配置された凸部 11 a と凹部 11 b の円弧縁に沿って多方向に分散される。即ち、サイン波形を表して連続する波形の振幅（凸と凹の差）を減じよう暖簾部 11 が伸長されるので、着用者の額に食い込んだり、あるいは収縮力を反転することにより捲れ上がるようなことはなく、着用者の皮膚に極めて良好に密着する。

10

【0032】

そして、エラストマーの塗膜により形成された透明又は半透明の生えざわシート 10 を延長することにより分け目ベース 10 a を形成しているので、外部から視認される分け目 5 と生えざわ部 4 が一体のフィルム状シートとして着用者の皮膚に好適に密着し、皮膚を透視せしめるので、前述のような錯視効果を向上する。

20

【図面の簡単な説明】

【0033】

【図 1】本発明の実施形態を示す斜視図である。

【図 2】本発明の第 1 実施形態を内側から示す底面図である。

【図 3】生えざわシートの第 1 実施例を示す断面図である。

【図 4】生えざわシートの第 2 実施例を示す断面図である。

【図 5】生えざわシートの第 3 実施例を示す断面図である。

【図 6】本発明の第 2 実施形態を内側から示す底面図である。

【図 7】本発明に対する第 1 比較例を示す説明図である。

【図 8】本発明に対する第 2 比較例を示す説明図である。

30

【符号の説明】

【0034】

1 頭髪

1 a 前髪

2 ベース

3 ネットシート本体

3 a 前部

3 b 両側部

3 c 後部

4 生えざわ部

5 保形部

9 長窓部

10 生えざわシート

10 a 分け目ベース

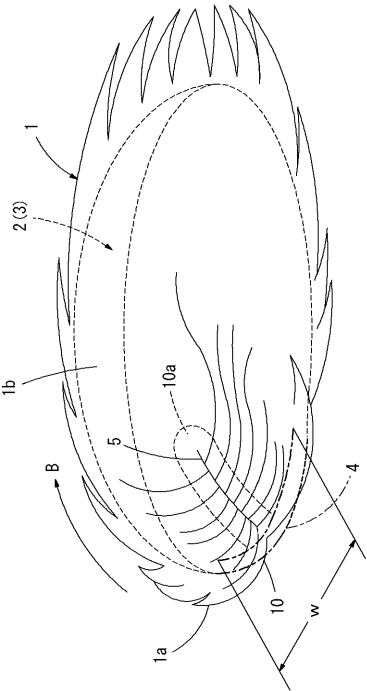
11 暖簾部

11 a 凸部

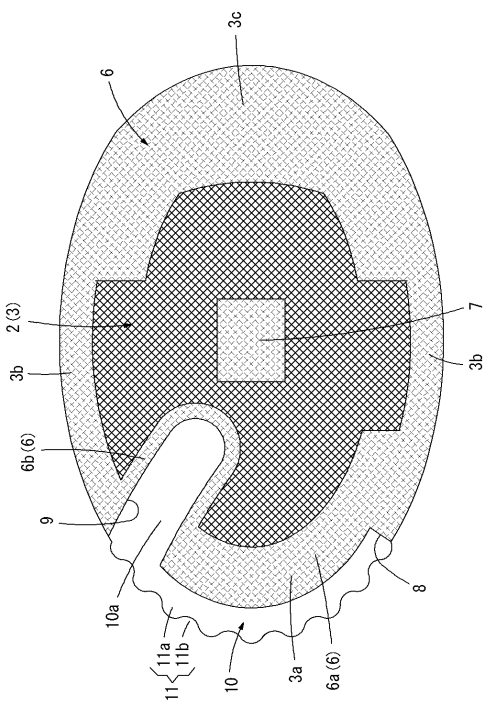
11 b 凹部

40

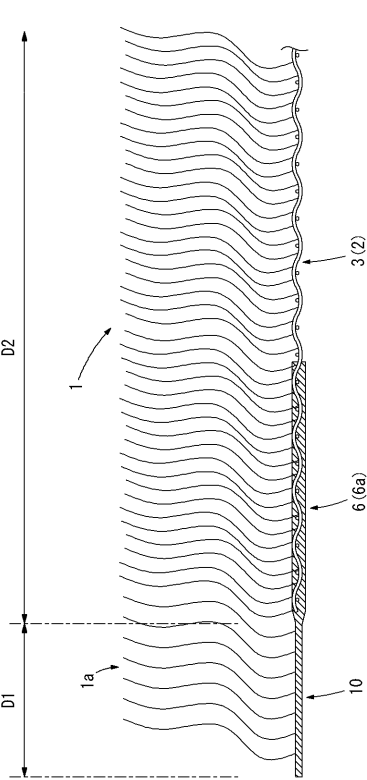
【図 1】



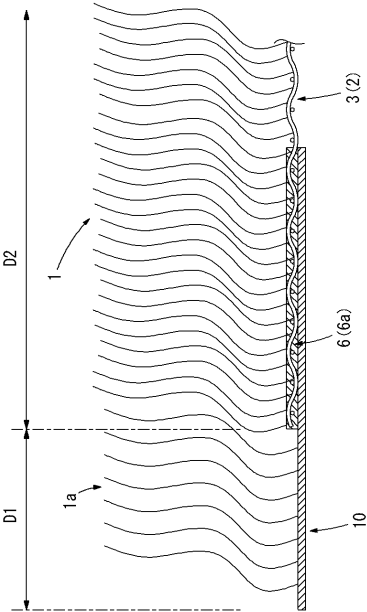
【図 2】



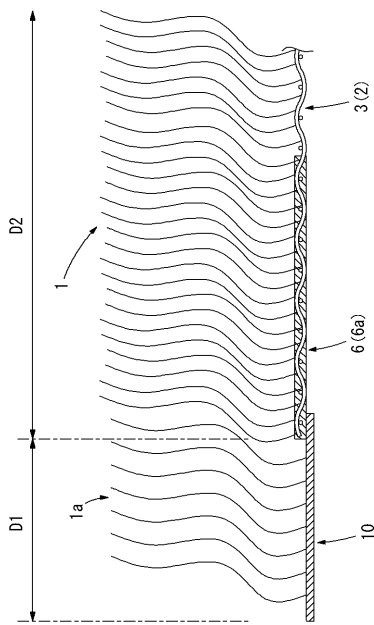
【図 3】



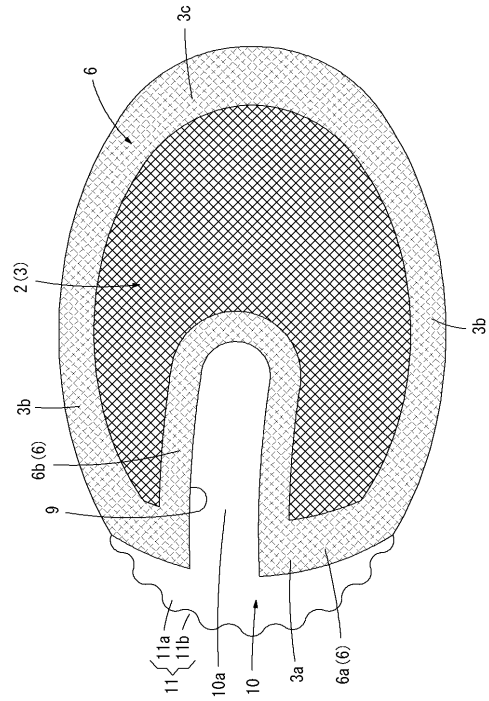
【図 4】



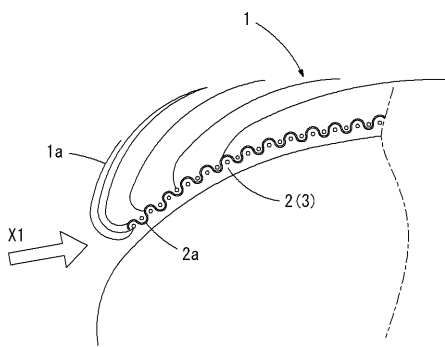
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

